

GreenID (Green Innovation and Development Centre) 訪問調査記録

[訪問日時]

2019年7月30日(火) 10:00 – 11:45

[場所]

GreenID 本部(No.C1X3 Lane6, Tran Huu Duc Street, Nam Tu Liem, Hanoi)

[先方]

Tran Tien Duc (Program Director)、Nguyen Thi Ha (Program Manager)、
Dung (Intern)

[当方]

ジェンキンソン陽、志賀隆雄、神野芳紀、田中直、橋本裕光、堀尾孝子

[内容]

○団体の設立

環境調和的(**green**)で革新的な技術・手法ならびに環境と資源のよりよい管理(**governance**)にもとづき、ベトナムならびにメコン河流域の持続可能な開発を促進することをめざして2011年に設立。

○活動と組織

現在、22名の専従スタッフが、専門家の協力を得ながら、次の3分野で活動している。

(1) 環境調和型の開発(Green Development)

LEP(Local Energy Planning)という活動を行っており、オフ・グリッドの地域を中心に、特定のコミュニティに関して、まず調査を行い、住民とコミュニケーションしながら、エネルギー供給に関する計画を立て、パイロット的な実施から、計画に沿った適用までを行う。改良型調理用コンロの普及、LEDランプへの転換、バイオガス(調理用)生産、太陽光発電などが、主な内容である。2016年までに、930家族が改良型調理用コンロを、776家族がLED電球を使うようになり、215家族がバイオガスシステムを設置するなどの実績をあげている。計画から実施まで、住民が参加しながら進めることを重視している。

(2) 持続可能なエネルギー供給 (Sustainable Energy)

調査研究、アドボカシー、ネットワークングからなり、調査研究としては、化

石燃料から再生可能エネルギーへの転換が、雇用、環境、経済、社会的観点から公正に行われていくための手段についての研究など。太陽光発電では広大な土地が必要とされるが、電池で日陰になる土地で植物を育てることの検討なども行っている。アドボカシーとしては、中央政府ならびに地方政府に、再生可能エネルギー促進を働きかける。ネットワーキングとしては、VSEA(Vietnam Sustainable Energy Alliance、NGO11 団体が加盟)の創設ならびに運営団体として、同アライアンスの活動の活性化をはかっている。

(3) 水と大気の管理 (Water and Air Governance)

ベトナムの水質にかかわる状況、エネルギー供給と大気汚染ならびに国民の健康との相関等に関する科学的情報を、住民、政府関係者などとの間で共有し、環境に配慮した投資を促進するなど、水と大気の状態を良好に保つための政策を促進している。

(ディスカッション)

- Q.導入した設備のメンテナンスはどうしているか。
A.住民を教育し、自らメンテナンスできるようにしている。
Q.多くの資金供与団体等の支援を得ているが、それはどのようにして得られたものか。
A.この分野で主導的立場にある団体だからである。
Q.政府へのロビー活動を行う際に、(反政府的と見られて規制されるなどの)困難はないか。
A.政府の人もまきこんで活動するようにしている。何かイベントを行う時は、半年ほど前から連絡をとり始める。

(感想)

- ・実績を見ると、改良型調理用コンロや LED の導入などは多いが、太陽光発電などは少ない。独自性のある技術はないものの、広報・アドボカシー能力と、資金獲得能力にすぐれている団体と見えた。(田中)
- ・再生エネルギーの導入について「それぞれのコミュニティに適したモデルを地元の人々とともに作り、完全に引き渡して継続運営してもらおう」という基本アプローチはとても素晴らしいと感じた。しかし、実際にそれがどこまで機能しているかは不明であった。(ジェンキンソン)
- ・グリーンイノベーション開発センターは、温室効果ガス削減のため石炭火力発電所の割合を削減し、天然ガス、太陽光発電の割合を減らすことを提言している。そのために、日

本・ドイツ・中国・ドイツなどの農地での太陽光発電の実績を調査し、ベトナムで実施した場合の FS を行った。ベトナムは緯度が低く太陽光発電の効率が高いので(5 円/kwh?) であるので、投資採算性がよく、また、地域への電力供給、トラクターなどの動力源、排水処理等にも使え実際のプロジェクトとして進めることが可能であると思う。(対象：稲・とうもろこし・コーヒー・エビ・豚 等) (橋本)

・組織紹介では、適正技術を推進するために、調査、提案、教育をしているとの事だったが、面談からの印象では、政府との調整や、住民の啓蒙、組織同士のコーディネートがメインのように感じられた。この組織自体は技術を持っている訳でもなく、提案と言っても、主に適正技術推進の為の場作りがメインで、関係した施設の状況は詳細には把握していないように思われた。(志賀)

・社会主義国の国家計画経済政策の中で NGO として制約はあるものの、政府、地方自治体と連携しながら世界的流れである Green な innovation と development をベトナムでも展開しているということに対して驚きを感じた。一方、政府、地方自治体からの許可や承認など必要なこともあり、仲良くしなければいけないため取り込められてしまうのではないかと懸念も感じた。それは別として、Green growth program を通じてかなり広範囲に地域住民へ情報提供、技術支援などを全国的に行っていることやそれに伴う資金の調達や関係部門との連携方法など NGO 運営について学ぶ点があるのではないかと思う。(神野)

(受領資料)

GreenID Strategy 2016-2020 (April 2016)

Annual Report 2018 “Renewable Energy for All”

Local Energy Planning (LEP)



GreenID 事務所訪問